

2次試験突破講座

短期間の学習でストレート合格を目指そう

はじめに(注意)

- このドキュメントは、私が2002年度の中小企業診断士2次試験に1次試験終了後2ヶ月間の学習でストレート合格した経験及びその後の後進の指導経験から得た受験の心構えや解答ノウハウを元に、2003年8月に参加していた受験対策の非営利勉強会において2次初受験者に対して合格講座を開催した際に配布したものです。
- 内容に関しては、同勉強会出身の合格者から教えていただいた受験の心構えや解答ノウハウをベースとさせていただいたものも含まれております。
- 最近受験学校などにおいてもこの内容と同じようなことを講義で話されていたり、受験生のレベルも向上してきており、また現在の勉強会参加者によりこれ以上のノウハウが構築されてきていますので、「勉強会独自のノウハウ」として勉強会内だけで共有する意味が薄れてきたので、公開することといたしました。
- 本ドキュメントは、自由に配布していただいてかまいませんが、(著作権表示も含め)改変しての配布や営利目的での使用は固くお断りいたします。

もくじ

2次試験の概要

- ・[診断士試験のあらまし](#)
- ・[2次試験で問われること](#)
- ・[試験の内容](#)
- ・[旧制度と新制度の違い](#)
- ・[合格基準と合格率](#)

合格するための心構え

- ・[合格か自己啓発か？](#)
- ・[学習期間と学習時間](#)
- ・[受験機関の選び方](#)
- ・[合格することに集中する](#)
- ・[2次は相対試験](#)
- ・[資格試験は常識試験](#)
- ・[過去問の重要性](#)
- ・[たくさん恥をかく！](#)
- ・[合格の方程式](#)

合格するためのテクニック

- ・[必要なのは問題解決能力](#)
- ・[24時間勉強可能](#)
- ・[学習スケジュール](#)
- ・[タコ社長基準](#)
- ・[キーワードは要注意](#)
- ・[答案がすべて](#)
- ・[答えは与件の中にある](#)
- ・[まずは全体シナリオを考えよう](#)
- ・[段落ごとに切り分ける](#)
- ・[アンダーラインの引き方](#)
- ・[タイムスケジュール](#)
- ・[財務事例もシナリオが大切](#)
- ・[真の問題と現実的な解決策](#)
- ・[結論先出しの法則](#)
- ・[解答フォーマット](#)
- ・[満点よりも合格点](#)

- ・[旧制度事例は知識補充](#)
- ・[議論は効果絶大](#)
- ・[写経のススメ](#)
- ・[最後まであきらめない！](#)

2次試験の概要

診断士試験のあらまし

中小企業診断士とはどのような資格なのか、再確認しましょう。

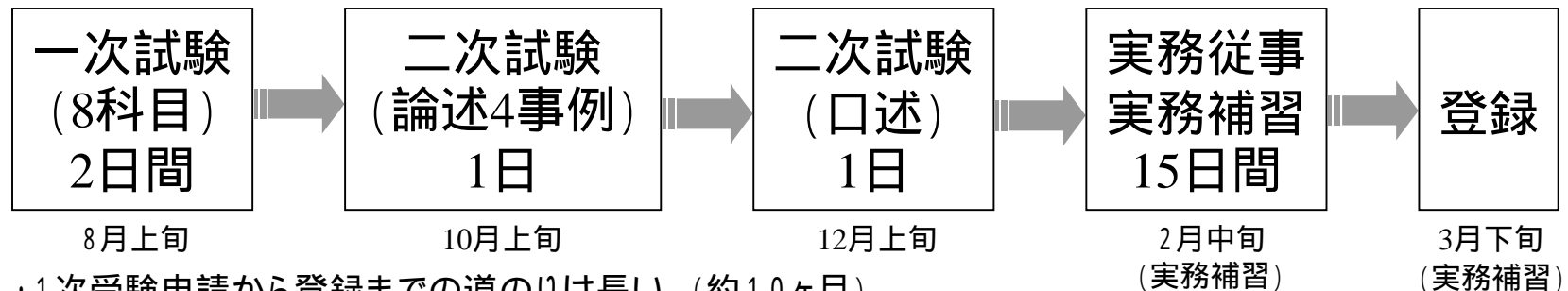
中小企業診断士とは、中小企業の経営課題に対応するための診断・助言を行う専門家を言います。
中小企業診断士は、中小企業支援法に基づいて経済産業大臣が登録する資格で、中小企業支援法では、次のように位置づけられています。

1. 中小企業者が経営資源を確保するための業務に従事する者
(公的支援事業に限らず、民間で活躍する経営コンサルタント)
2. 業務は「経営の診断及び経営に関する助言」
3. 中小企業診断士試験は、法律上の国家資格

(中小企業診断協会ホームページより抜粋)

- ・弁護士・税理士のように業務独占資格ではない。(名称独占資格 競争相手は診断士だけではない)
- ・取ったらすぐに仕事ができる資格ではない。(相手に信頼される実績と実力が必要)
- ・仕事の内容は人それぞれで多岐に渡る。(収入も人それぞれ)

受験から診断士登録まで



- ・1次受験申請から登録までの道のりは長い。(約10ヶ月)
- ・1次と2次の間は2ヶ月しかない。(試験は1年に1回のみ)

2次試験で問われること

1次試験の定義

第1次試験は、「中小企業診断士の登録及び試験に関する規則」第18条に基づき、中小企業診断士となるのに必要な学識を有するかどうかを判定することを目的とし、筆記の方法により行います。
(中小企業診断協会ホームページより抜粋)

2次試験の定義

第2次試験は、「中小企業診断士の登録及び試験に関する規則」第20条に基づき、中小企業診断士となるのに必要な応用能力を有するかどうかを判定することを目的とし、中小企業の診断及び助言に関する実務の事例並びに助言に関する能力について、短答式又は論文式による筆記及び口述の方法により行います。
(中小企業診断協会ホームページより抜粋)

つまり

コンサルタントに必要な応用能力

を試されるのが2次試験である

参考 (三省堂デイリーコンサイス 国語辞典・英和辞典より)

consultant = 指導・助言をする専門家.

consult = 相談する, 意見を聞く; (医者に) かかる; (参考書を) 調べる, (辞書を) 引く; (利害・感情などを) 考慮する.

応用 = 理論やすでに得た知識を、具体的な個々の事例や他の分野の事柄にあてはめて用いること。

また、相手やその場の状況に合わせて変化させて用いること。

試験の内容

論述試験(事例解析)

ある企業についての概要や抱えている問題点についての説明文(与件文)に基づいて、与えられた設問(問題の改善方法や経営の方向性)について、論述形式で解答を行う。(10字から250字までの文字数制限がつく)

口述試験(面接)

論述試験の事例問題について、論述試験よりも深い解答や違った問題点について、面接形式で解答する。一人10分程度。

解答の内容よりも、答え方や態度を見ている試験なので、社会人の常識があれば不合格となることはまずない。

論述試験の時間割 (1問80分)

10:00 ~ 11:20	事例1	組織・人事
11:40 ~ 13:00	事例2	マーケティング
14:00 ~ 15:20	事例3	生産管理
15:40 ~ 17:00	事例4	財務

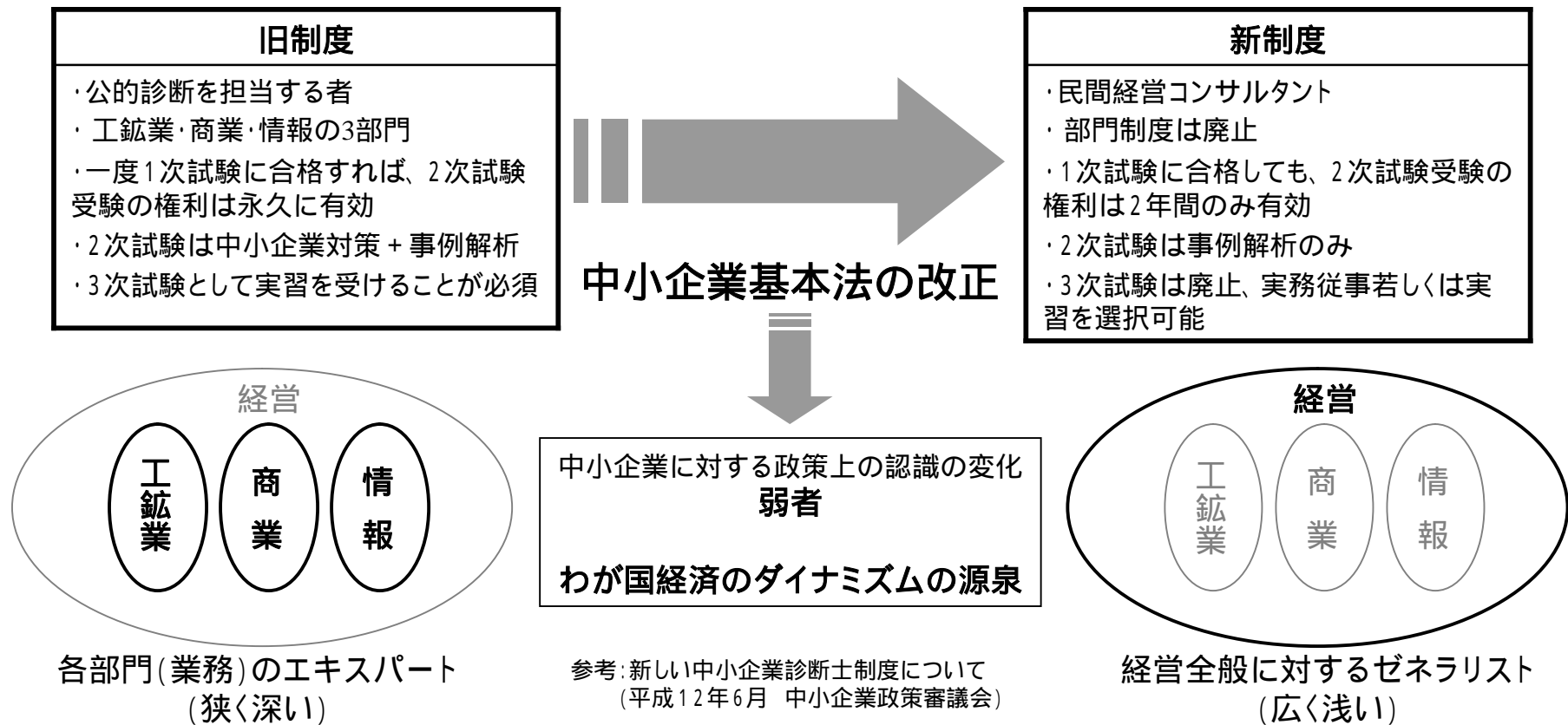
試験の内容については平成13年、14年の実績に基づいたものであり、変更される可能性もある。

口述試験は、その性質上それぞれ集合時間・試験開始時間が異なる。

旧制度と新制度の違い

平成13年度から、中小企業診断士制度が大幅に変わりました。

どのように変わったかを見比べると、いま中小企業診断士に求められていること(試験で問われること)を理解できます。



合格基準と合格率

合格基準は、筆記試験における総点数の60%以上で、かつ、1科目でも40%未満がない者であって、口述試験における評定が60%以上のものです。

(中小企業診断協会ホームページより抜粋)

と、なっているが……

実質的には相対試験である。

理由(想像・噂)

- ・出題者の想定しているレベルよりも受験者の解答レベルが劣っているため、下駄を履かせている。
- ・実習の受け入れ体制や登録手続きの事務処理の限界から、合格者数を制限せざるを得ない。

過去5年間の試験結果

		受験者数	合格者数	合格率
平成10年度	工鉱業	449	85	18.9%
	商業	2,516	466	18.5%
	情報	757	138	18.2%
	合計	3,722	689	18.5%
平成11年度	工鉱業	496	88	17.7%
	商業	2,683	471	17.6%
	情報	788	157	19.9%
	合計	3,967	716	18.0%
平成12年度	工鉱業	535	70	13.1%
	商業	3,159	438	13.9%
	情報	965	107	11.1%
	合計	4,659	615	13.2%
平成13年度		5,872	627	10.7%
平成14年度		6,394	638	10.0%

上位600～700名程度を合格としているようである。

合格するための心構え

合格か自己啓発か？

なぜ、診断士試験の勉強をしているのか再確認しましょう

なんとなく、自己啓発のために…
将来に対する不安を和らげるため

合格を目指している人の邪魔にならないように
注意しマイペースで学習を続けましょう
(他の人が合格しても妬まないこと！)

中小企業診断士にならなくてはいけ
ない理由、合格しなくてはいけ
ない理由があるから

今までの経験、常識にとらわれず、どうすれば
合格に近づくかを第一に考え行動しましょう
(合格した時の自分の姿を常に想像する)

学習期間と学習時間

学習期間は合格に関係ない
重要なのは学習時間

「診断士に合格するのに何年かかりましたか？」という質問を受けることがありますが、この質問はまったく意味がありません。
例えば、同じ一年でも毎日朝から晩までやっている人、週末しかやらない人がいるからです。
逆に言えば、学習期間が短くても学習時間をできるだけ多くとることで、短期合格は可能です。

学習期間 = 学習をはじめてからの日数・年数
学習時間 = 学習を実際に行っている時間数

受験機関の選び方

合格率0%の受験機関はない
合格率100%の受験機関もない

受験機関を選ぶ際に、合格率を判断基準にしてはいけません
合格率を計算する際の母集団は各学校で異なりますし、その年の受講生の個人差も影響します
大事なのは、全面的な信頼を寄せて講義を受けられるかどうかです。周囲の評判やテキストのわかりやすさ、講師との相性等を、自分で判断しましょう

Q. 受験機関には行くべきか、行かなくて良いか？

A. 人それぞれです。講義形式での学習の方がはかどると思う方は、行った方が良いですし、自分のペースで勉強したいという方は、行かなくてもよいと思います。費用対効果が望めるか、合格するための近道になるのかを自分自身でよく考え判断してください。
くれぐれも「お金がないから」「お金がもったいないから」行かないという発想をしないでください。

合格することに集中する

勉強する過程ではなく、合格することが重要

資格をとってなにかをしようとしているのなら、とにかく合格することが先決です。ハイスピードで合格した場合は、十分な知識を持たずに合格してしまう可能性が高いですが、そのような知識は、合格した後にいくらでも勉強できます。

「どうすれば合格に近づけるか？」という判断を最優先に行動する。

仕事が...家族が...とそれぞれ色々と勉強できない理由はあるのですが、そのような環境におかれていながらも、受験を決意したのは貴方です。合格しようと思ったのも貴方です。受かって資格の恩恵をうけるのも貴方です。他人に言い訳をしても、なにも解決になりません。自分のおかれた環境で「どうすれば合格できるか？」を真剣に考えましょう。

2次は相対試験

試験の難易度は関係ない。上位600人に入れば合格！

2次試験は実質的に相対試験です。
どんなに難しい問題がでてでも上位600人に入れば合格です。

どのような試験問題がでてでも、他人よりちょっとだけ良い解答を書ければOKです。
難問・奇問がでてでも、粘り強く諦めずに解答しましょう。

この勉強会は、全国にたくさんある勉強会の中でも、かなり
ハイレベルです。ここに参加している方は、環境的にはすでに、
上位600人の中に入っています。あとは、実力をつけるだけです。

資格試験は常識試験

あなたの理論や考えは聞かれていない

診断士に限らず資格試験は、一般的に正しいといわれている知識で答えなくてはなりません。世間ではまだ知られていないような最先端の理論やあなたの考えた理論は、たとえそれがとても素晴らしいものであっても、不正解となってしまいます。世間一般的に常識といわれている知識を使って解答しましょう。

試験で必要なのは、客観的に正しいといわれている考え方

過去問の重要性

必ず、過去3年の問題を3回解く

どのような資格試験でも、過去問を解くのは学習の王道です。過去3年間程度の問題を解けば、試験で問われる範囲は大体出尽くします。とにかく、過去問を徹底的に攻略しましょう。
(旧制度の情報部門は出題形式が異なるので解く必要はありません)

同じ問題を何度も解答してることが大切です

たくさん恥をかく！

受験生なのだから、間違えてあたりまえ

勉強会では、積極的に発言しましょう。「こんなことを言ったらバカにされるかな？」などと考える必要はありません。
また、発言を聞く側も頭ごなしに否定するようなことは止めましょう。
ブレーストーミングの考え方で、疑問や知識の共有化を行いましょう。

勉強会で恥をかくか？不合格で恥をかくか？どちらが、自分にとってプラスになるかは明白です。
本当のプライドはなにかをきちんと認識しましょう。

合格の方程式

基礎知識 + (学習時間 × 効率性 × 集中力)

基礎知識がない人は、学習時間・効率性・集中力を高める。
学習時間が取れない人は、効率性・集中力を高める。

この方程式を頭の片隅において、学習を進める

合格するためのテクニック

必要なのは問題解決能力

コンサルタントは、問題解決の助言者

新制度の診断士試験は、経営コンサルタントとしての能力を問われる試験です。
経営コンサルタントは、スペシャリストではなくゼネラリストです。
(技術的な深い内容については、それぞれの専門家に勝てるわけがありません)
問われているのは専門知識ではなく、問題点を見つけ出し解決する能力です。

コンサルタントと評論家の違いをはっきりと区別しましょう

24時間勉強可能

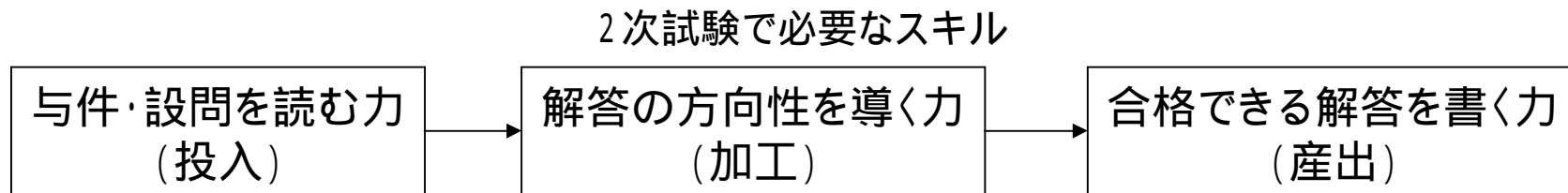
問題意識・解決能力を養う題材は世の中にあふれている

テレビCMや電車の中吊り広告、お茶を飲みに入った喫茶店、お酒を飲みに入った居酒屋、テレビ・新聞のニュース、会社の会議・・・社会生活全てにおいて、問題点は必ずあります。そのような問題点をすばやく見つけ、自分なりの解決策を考えてみるという訓練を行うことも、2次試験の勉強となります。

評論するのではなく、解決策を導く訓練をしましょう

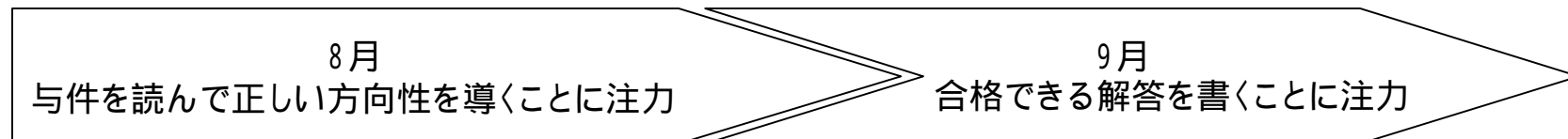
学習スケジュール

2次試験当日から逆算し、計画を立てよう



期限を区切ってこれらの力をつけていく訓練を行う

ストレート合格の例



タコ社長基準

素人が読んでも理解できるわかりやすい解答を書く

中小企業診断士は、学者になるための試験でも、大企業に対する最新の戦略を立案する能力を試す試験でもありません。
商店や町工場の経営者でも、理解できるわかりやすい解答を書く必要があります。

だれに対して何を伝えようとしているのかを考えながら解答しましょう。

タコ社長(故:太宰久雄)
映画「男はつらいよ」(寅さん)に出てくる、零細印刷屋の社長

常に、タコ社長を思い浮かべながら解答しよう！

キーワードは要注意

キーワードの使いすぎは、理解度を疑われる

1次で学習した言葉(キーワード)は多用してはいけません。
キーワードが多く書かれた文章は、読み手に対して「こいつ本当に理解できているのか？」と疑われてしまいます。
使用する場合は、「 という××(キーワード)」というように、説明を加えて使うことがベストです。

本質をきちんと理解して書いているということを表現する

答案がすべて

解答文章で表現できなければ、意味がない

貴方がどれだけコンサルタントとしての素質を持っていようと、どんなにすばらしい考えを持っていようと、どれだけ勉強していようと、それを答案に表現できなくては、試験では意味がありません。自分の思いを文章で伝えるための訓練をしましょう。

自分の考えを漏れなく、誤解されないよう、わかりやすく伝える

答えは与件の中にある

与件文にかかれていない事は、聞かれていないこと

現実の世界では、問題点の解決方法や経営戦略は色々な方法があり、正解は一つだけとは限りません。しかし、試験として解答を評価するにあたっては客観性のある基準が必要です。このため、2次試験では、解答の方向性が一意的になるように与件文中に制約条件(トラップ)があります。

問題点や戦略の方向性を聞かれる問題で、複数の方向性があるときは、この制約条件に注意して解答しましょう。

また、複数の選択肢があるのに、与件文に制約条件が書かれていない場合は、その解答の方向性自体が間違っている可能性があります。

(具体的な提案レベルの問題など、知識・アイデアを問う問題は除く)

制約条件は、公平性を保つために事例にでてくる業界に詳しい人であれば解けてしまうような事にならないようにするために付け加えてられていることもあります。

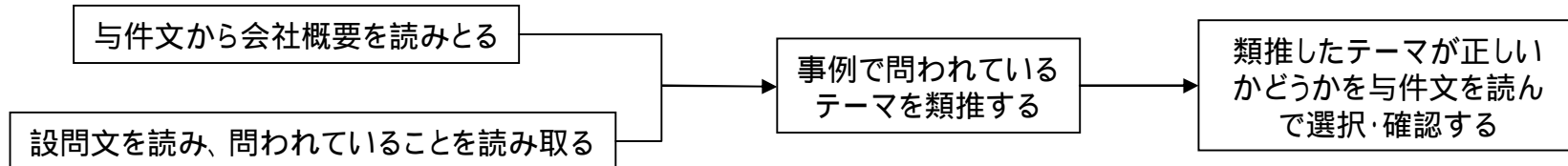
与件にかかれていない事を答えるのは妄想です

まずは全体シナリオを考えよう

解答には、一貫性が必要

各設問の答えは、全て一貫性がなくてはなりません。
全体シナリオを明確にせずに解答を行うと、一貫性がとれてない
解答となってしまう恐れがあります。

全体シナリオをすばやくつかむコツ



事例問題で問われてる問題の本質はそれ程多くない

なれないうちは、模範解答・解説を見ながら200字程度のシナリオを書いてみる

段落ごとに切り分ける

話の切れ目となる段落に横線を引くと話が見えやすくなる

多くの事例文章は、「会社概要」「過去の成功体験」「問題点の発生」「現状」と複数の時制が交じり合った文章となっています。
この時制を間違えると、過去のことを聞かれたのに現在のことを答えてしまったりと、致命的なミスをおかしてしまう可能性があります。
話が切れる行間(段落)に横線を引くと、このような混乱がなく話が見えやすくなってきます。

余裕がある人は、段落の要旨を書き添えるとさらにわかりやすくなる

アンダーラインの引き方

できる人ほど、アンダーラインの数は少ない

アンダーラインは、重要な文章を認識するために引くものです。
全体的なシナリオが予測できてないうちにアンダーラインを引いても
かえって混乱を招くだけです。
全体が見えてないうちにSWOT分析などで色分けしてはいけません。
なぜなら、全体の方向性によってSWOTは変化するからです。

例：「周辺には老人世帯が多い」というのは、企業の目指す方向性により
プラスにもマイナスにもなり得る。

マーカーで色分けする必要はない
アンダーラインは本当に大事なところだけに引く

タイムスケジュール

80分間をどう使うかが合否の分かれ目

80分という時間は長いようで短い時間です
時間の使い方をきちんと決めておかないと時間内に解答はできません

Hさんの場合

0分～20分 与件読み・解答の方向性
20分～70分 解答を書く時間
(1点 = 0.5分)
70分～80分 見直し

Yさんの場合

0分～30分 与件読み・解答の方向性
30分～70分 解答を書く時間
(1点 = 0.4分)
70分～80分 見直し

自分にあった時間配分をつかんでおきましょう
試験が始まったらすぐに時間配分を試験問題に記入しておき、試験中のペースメーカーにしましょう

日頃から時間を計って事例を解き、80分間を体で覚える

財務事例もシナリオが大切

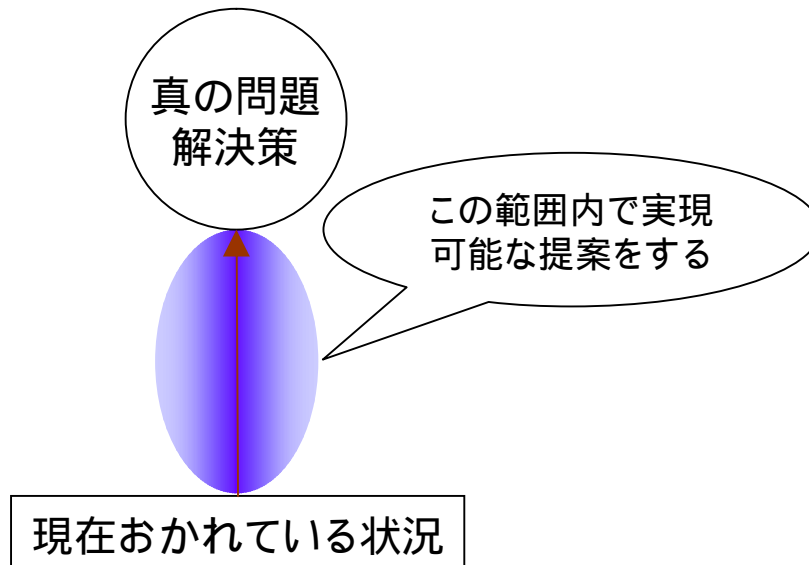
2次の財務は、財務的な視点での問題解決能力

財務事例はただ単に計算ができるかどうかではなく、財務的な視点で問題点を把握し、解決できるかどうかを試される試験です。
特に経営分析指標をあげる問題では「デュポン方式」など、型にはまったとおりの財務分析ではなく、「この企業の問題点はどこにあり、それを裏付ける分析指標はなにか？」という観点で解答しなくてはなりません。

1次レベルの計算問題は確実に解けるようにしておく

真の問題と現実的な解決策

2次試験では現実的な解決策の提案能力が問われている



提案する(解答に書く)解決策は、具体性がなければいけません。

具体性とは、その企業のおかれている環境や経営資源によって、実現可能な方策ということです。

また、実現可能な方策でも、真の問題点の解決につながらない方策ではいけません。

例:在庫削減の解決策 在庫処分セール
(一時的な解決でしかない)

真の問題点・解決策を理解した上で、実現可能な解決策を提案する

結論先出しの法則

解答は必ず結論先出しで書く

結論が先にかかっている文章は、言いたいことがすぐに伝わります。
また、その理由(説明)が多少違っていても言いたいことが伝わります。

結論先出しでない文章

今日は天気がよいので洗濯物を干した。

結論先出しの文章

今日は洗濯物を干した。理由は天気がよいからである。

結論先出しの文章は、文字数の調整も簡単である。(新聞方式)

模試はハイレベル

受験機関の模試、問題集はポジティブに活用する

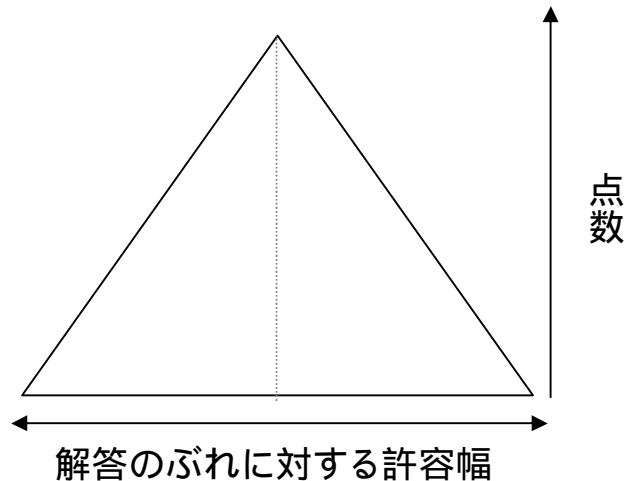
受験機関の作成する模試等は完成度が低いからと、軽視する傾向がありますが、少ない制約条件の中で、出題者が意図している答えを見つけだす良い訓練になります。

ポジティブに考えると、本試験の問題よりもレベルが高いとも考えられます。どのような模試でも、出題者の意図に近い解答を導き出せるようになれば、合格間近です。

沢山の問題をこなして、どんな問題でも対応できる力をつけよう

満点よりも合格点

100点でも60点でも合格は合格



点数が高くなるほど、解答のぶれに対する許容範囲は狭くなります。
あまり、高得点を狙った解答を書くと、少しの間違えで大幅減点されてしまう恐れがあります。
本試験の解答では、一段落として安全範囲の解答を書きましょう

合格者の再現解答を見て、どの程度の解答を書いているのか参考にしよう

旧制度事例は知識補充

旧制度の良問は必ず解いておく

旧制度の問題は、その分野に関する深い知識が必要とされます。
診断士の制度が変更となり、旧制度と新制度では出題方針が大幅に変わりましたが、必要とされる専門的な知識に関しては、旧制度の問題の方が勉強になります。
知識の整理のためにも、旧制度の良問は必ず解いておきましょう。

旧制度の問題では、解答の書き方よりも知識や考え方に重点をおく

議論は効果絶大

勉強会では積極的に議論に参加し、他人の知識を盗む

このような勉強会の最大のメリットは受験生同士で議論を行うことによって、思考プロセスを養っていただけることです。

他の人より劣っているから、自分の方が優れているから…とって、議論に参加しないのは非常にもったいないことです。

議論には積極的に参加し他人の知識を盗みましょう。

ただし、ブレンストーミングの原則を忘れずに！

議論は試験合格のため手段、議論をすることが目的とならないように注意が必要

写経のススメ

合格者の再現解答・模範解答を毎日書き写す

写経をすることで、解答の書き方や頻繁に使われる言い回しが自然と自分のものになります。
本試験では、一日4事例を解かないといけないので、日頃から文字を書いている人には非常につらいこととなります。
写経をすることで、文字を書く力を向上させましょう。

写経は、地味な作業だが毎日の積み重ねで物凄い能力がつく

最後まであきらめない！

診断士試験は、精神的にも肉体的にも非常に大変な試験です。
多くの方が、実力以前の問題で脱落しています。

特に本試験で最後の事例4まで集中力を持続させるのは、常人的な精神力では、不可能に近いことです。

しかし、「絶対合格する」と強い意志を持って、何があっても最後まで諦めずに集中して真剣に打ち込めば必ず良い結果が出ます。

とにかく最後まであきらめずに頑張りましょう。